

## 第六次多摩市総合計画の重点テーマ（たたき台）

### 1 環境との共生

本市は、令和2年6月、2050年までにCO<sub>2</sub>排出実質ゼロ、使い捨てプラスチック削減の推進、生物多様性の基盤となる水とみどりの保全を目指し、市議会とともに「気候非常事態宣言」を行いました。

なかでも「気候危機」への対策は、全地球の国境を越えたグローバルな最重要課題として、私たち一人ひとりが意識を変え、行動変容を起こさなければなりません。

脱炭素社会づくりに向けた具体の取組みや行動を市民とともに考えるしくみ、社会変容を推進していくための場として「気候市民会議」を立ち上げ、「気候危機」を私たち一人ひとりが当事者として捉え、何をすべきか、何ができるか、そして地域としてできること、そのために行政や民間事業者はどのような支援をすべきか、などについて議論しました。

子どもたちの未来を守るために、気候非常事態宣言を踏まえてこれらの問題に最優先で取り組み、本市が「環境共生型都市」となることを目指し、次のとおり基本目標を設定します。

基本目標1 自然と暮らしが調和した多摩のみどりづくり

基本目標2 安全・健康で快適な生活環境の保持

基本目標3 カーボンハーフの達成に向けた行動の実践

基本目標4 意識と行動の変革につながるムーブメント

## 2 健幸まちづくり

医療技術の進展や公衆衛生の向上を背景に日本人の平均寿命が 80 歳を超えた今、長い人生を健康で幸せに全うすることは市民すべての願いと言えます。

また、市民が健康で幸せであることは、医療費や介護費の伸びを抑える効果も期待できることから、それを支援することは、人口減少による税収減や、高齢化による社会保障関係費等の支出増が見込まれる中、多摩市を未来への投資をし続けられる都市、持続可能な都市とするために欠かせない方策でもあります。

こうしたことから、多摩市では、誰もが生涯を通じて健康で幸せに過ごせるまちを築こうという取組みを「第五次多摩市総合計画・第2期基本計画（平成27年4月）」において打ち出し、「第五次多摩市総合計画・第3期基本計画（令和元年6月）」では、基盤となる考え方に位置付けて取組みを推進してきました。「第六次多摩市総合計画」においては、基本構想の中で「分野横断的に取り組むべき重点テーマ」として位置付け、市民、市民団体、事業者、大学そして行政などの多様な主体が互いに協力し、分野横断的に取り組んでいくこととし、次のとおり基本目標を設定します。

基本目標 1 健幸的な生活の獲得支援

基本目標 2 暮らしの安全・安心

基本目標 3 世代の多様性の確保

### 3 活力・にぎわい

今後、地球温暖化をはじめとする気候変動や、少子化・高齢化のさらなる進行による人口減少などの様々な課題に対して、日々進化するデジタル技術の活用や多様な人材などの活躍を通じて、どのように持続可能で活力のある社会を構築していくかが、ますます重要となります。

また、国内でも大型台風等による災害が繰り返し起こり、本市でも大雨特別警報が発表された「令和元年東日本台風」など被害が激甚化する傾向にあります。安心して住み続けられるまちにするためにも、国土強靱化による安全・安心な地域づくりは欠かせません。

令和3年3月に策定した第2期多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）では、これから先の未来を見据えた長期的な視点を持ちつつ、刻々と変わる時代や社会情勢に対応するための取組みを示しており、これは「第六次多摩市総合計画」における将来都市像の実現と方向性を同じくしています。その内容を基本構想で定めた「分野横断的に取り組むべき重点テーマ」に反映させるため、総合戦略を改定し、次のとおり基本目標と基本目標達成に向けたデジタル実装を設定します。

なお、総合戦略は、まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）第10条に基づき、国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」及び東京都の地方版総合戦略である『未来の東京』戦略を勘案し、策定しています。

基本目標1 まちに仕事をつくる

基本目標2 まちに人の流れをつくる

基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

基本目標4 魅力的なまちをつくる

基本目標達成に向けたデジタル実装